

テクニカルダイアリー



ハダニは、一度まん延してしまつと防除が難しく、農薬散布を何度も行うこととなります。近年は天敵の導入が進み、使用方法も確立しているため、大きな被害になることは少なくなり、防除を徹底することや、使用で

ハダニ類対策



写真② ヨトウムシ

昨年は夏場の高温により、育苗期の管理が非常に難しく、また、定植後の芽なし株が多く見られ、初期生育に大きく影響しました。病害虫に関しては、定植から収穫の直後までにヨトウムシ(写真②)が多く見られ、防除に非常に苦戦しました。ヨトウムシ対策には表③を参考にしてください。

天敵製剤
①スパイカルEX、②スパイデックス、③ミヤコパンカー、④スパイカルプラスなどがあります。③・④については袋の中に天敵と餌が入っており、長い時間放出される資材です。時間はかかりませんが、継続的效果があるため、導入時の防除さえしっかりしていれば、長期間安定してハダニを抑えることが可能です。設置してから外に出るまでの時間がかかるため、天敵に影響の少ない農薬であれば使用可能です。導入時期は、直接放飼す

天敵製剤

この他に、ヒタイチ、ダニサラバフロアブル等を使用し、ハダニのいない状態を作りましょう。

定植前はモベントフロアブルを天敵導入45日以上前に使用し、定植後はトランスフォームフロアブルを天敵導入15日以上前に使用してください。

表③ ヨトウムシの防除薬剤

Table with 3 columns: 薬剤名, 希釈倍率, 使用回数. Lists various pesticides for whitefly control.

※使用時期はすべて収穫前日まで

表④ イチゴのうどんこ病に登録のある薬剤

Table with 4 columns: 薬剤名, 希釈倍率, 使用回数, 作用特性. Lists pesticides for strawberry powdery mildew.

※使用時期はすべて収穫前日まで

べと病(写真①)は、湿度が90%以上、気温が10〜20℃(最適温度は15℃)の条件を好み、発生しやすい。発生しやすいのは、圃場の外に除去していただき。多発してから農



写真① べと病

ネギアザミウマ
雨が少なく乾燥傾向の場合に多発するため、注意しましょう。成虫は体長1.5mm程度の褐色で細長く、幼虫は体長1.5mm以下で黄色く細長いのが特徴です。成虫、幼虫ともに食害を行い食害痕は

表① 玉ネギに登録のある殺菌剤一覧

Table with 6 columns: 薬剤名, 希釈倍率, 使用時期, 使用回数, 対象病害, 特性. Lists fungicides for onion diseases.

表② 玉ネギに登録のある殺虫剤一覧

Table with 5 columns: 薬剤名, 使用量・希釈倍率, 使用時期, 使用回数, 対象害虫. Lists insecticides for onion pests.

本年は昨年引き続き、べと病の発生が見られ、後半には雨量が多く軟腐病も発生しました。作柄は9割が2Lやしで大玉中心となり、収量は前年を大きく上回り、価格も前年を上回る傾向となりました。

病害虫対策について

軟腐病は鱗茎の肥大期から見られ、初めは下位葉の葉鞘部が灰白色または淡褐色に変わり、病状が進むと鱗茎が軟化腐敗し悪臭を放ちます。また貯蔵・輸送中にも腐敗症状が発生します。病原細菌は土壌中に生息し、虫害や農作業などによる傷から侵入します。排水が悪い圃場で発生が多くなるので、排水対策を徹底しましょう。

軟腐病

タネバエ
幼虫が鱗茎に侵入し食害する

タネバエ

ため、根が伸びず葉がしおれ、食害を受けた鱗茎は腐敗します。タネバエの成虫は腐ったものに寄っていく傾向があるため、発生の多い圃場では播種時や定植時に牛ふん、鶏糞等の有機質肥料を多用しないようにしましょう。

タネバエ